



社会福祉法人  
京都聴覚言語障害者福祉協会

# 入所施設でこころの病気を 持つ利用者と共に暮らす

～専門職の関り～

いこいの村・栗の木寮 前川 恵子

# いこいの村・栗の木寮



昭和57年に開所。  
定員34名、短期入所2名  
グループホーム5名  
生活介護、就労継続支援B型  
の多機能事業所

# 精神科を受診している方の状況

精神障害者福祉手帳を所持している方・・・

9 / 33人

精神科を受診している方・・・ 18 / 33人

# 報告する事例

短期入所をご利用された  
方の事例

現在、栗の木寮で入所さ  
れている方の事例

今、栗の木寮に求められている役割は何なのか。  
施設入所での支援と医療機関や他機関との連携。どんなことができるのだろうか。



# 短期入所に来られた山田さん

緊急避難的に栗の木寮に来られた山田さん。

最初は集団生活に緊張していたが、少しずつみんなと一緒に過ごせるように。控えめで、大人しい性格。

そんな、山田さんが・・・。



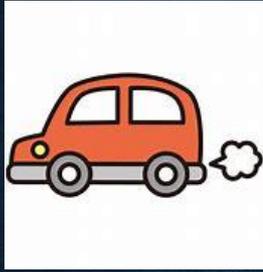
# 突然変わった山田さん！！

名前がちがう  
別の人間に変わってしまう

攻撃的な言動  
物を壊す

解離性障害??





別の名前を名乗ったまま、退所



行政の担当者、手話通訳者に報告。  
情報提供施設にも問い合わせをする。

★ 入所前にはこうした情報が得られず。

## わかったこと

精神科の受診が定期的にできていない。

受診時、手話通訳が同行できていない。

入院されていた期間もあるが、コミュニケーションがうまくいかず、本人の人格が変わっていることを周囲が気づけていない。



本人の思いを聞ける環境、関係づくり。  
必要な医療を受けられる支援。

# 他にもこころの病気をお持ちの方の相談は 多くあります。

- ・肌を露出する服装に興味があり、そのまま外にでかけてしまう。（受診では性癖なので仕方ない・・・）
- ・ひとり暮らしをしているが、地域と馴染めない。  
自分の名前や姿と似ているものを見ると壊してしまう。家ではままごとのような暮らしをしている。  
（精神科では治療の対象ではない）
- ・ちいさな子どもに執着してしまう。

## 長山さんの事例（栗の木寮）

長山さん／万引き、物損、窃盗など。社会通念上許されない行為を繰り返す。

職員もイライラした時の対処法を相談したり、同じことを繰り返さないよう話をしてきたが、こうした行動が収まらず、入院の選択をした（本人の同意の上）。

## 栗の木寮で行ってきた支援

平成29年に栗の木寮短期入所の利用を経て、栗の木寮へ入所された。

高校卒業後、一般就労をされるが、人間関係がうまくいかず退職。

平成16年以降は施設を利用されるようになる。

## 長山さんの行動

自分のやりたいことは我慢できない！

→他の人からお金をとる。お店で万引きをする。

悪いことがあるのは誰かが悪いことをしているから。

→自分の部屋に誰か入ってくる。盗る。壊される。

# どうしたらこのような行動がなくなるのか



職員との交換  
ノート



好きなイラストを描き、出展→自信に。



買い物

移動支援の  
利用

職員同行



イライラした時の対処法をみんなで相談。  
→その場を離れる。  
お茶を飲む。  
落ち着く・・・



出勤時の見送り

## 定期的にケース会議を開催

担当行政、相談員（相談支援事業所・手話通訳）、ヘルパー、権利擁護事業など、関係者が集まり、情報共有を行い、支援方針を検討、確認する。

# 病院での様子は・・・？

入院中はとても落ち着いて過ごされ、不穏な様子はなし。

入院して2週間程で退院の話が出る。

→薬の変更なく、具体的な治療もない中で、栗の木寮としてどのように受け止めたらいいか。相談に時間を要した。

また、施設内でのコロナ濃厚接触者の対応等で、退院に向けての支援が十分に取れず、入院から4か月後の退院となった。

## 退院後について

主治医からは環境を変えることが必要

→以前の部屋から別の部屋へ変わる。居住環境の変更。栗の木寮以外の施設についても検討するが、該当する場所はなし。実家に帰ることもできない。

## この事例の課題は・・・

栗の木寮では破壊行為や人に危害を加える行為が頻繁に見られた。病院ではそのような様子は一切なし。

環境の変化が必要であるが、施設の中でどのような変化を作ることができるのか。施設でできること、できないこと。

服薬の調整について。医療との連携が大切。

# ろう重複の方と共に歩むこと

ろう重複の方の「思い」を知ることは容易ではない。その方の生い立ち、環境、経験してきたことなど、多くのことを知る必要がある。

単に「問題行動」ととれる行為にも複雑な思いや表現できない葛藤や苦しみを抱えていることも多い。施設で共に過ごす私たち職員はどのように接し、支援すればいいのか。医療分野とも積極的に連携していきたいが、その方法についてはまだまだ不慣れな面も多くあると感じる。

## さいごに・・・

全国に今もひとりで悩んでいたたり、苦しんでいる仲間がいるのなら、私たちにしかできないことで力になりたいと感じます。

その私たちにしかできないことを今回の研修でひとつでも多く感じ、日々の業務に活かしたいと思います。

ご視聴ありがとうございました。

